

## 肺炎球菌ワクチン(プレベナー注)を受ける方へ

### 【このワクチンの効果は？】

高齢者又は肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる人

肺炎球菌(血清型1、3、4、5、6A、6B、7F、9V、14、18C、19A、19F及び23F)による感染症の予防

小児

肺炎球菌(血清型1、3、4、5、6A、6B、7F、9V、14、18C、19A、19F及び23F)による侵襲性感染症の予防

※このワクチンの接種により13種類の肺炎球菌血清型に対する抗体ができ、かかりにくくなります。

※肺炎球菌は主に気道の分泌物に含まれる細菌で、唾液などを通じて飛沫感染し、気管支炎や肺炎、敗血症などの重い合併症を引き起こすことがあります。肺炎はわが国の死亡原因の第5位となっています。

◎当院においては、肺炎球菌ワクチンには「プレベナー注」と「ニューモバックス注」の2種類があります。

任意接種にはなりますが、2種類を併用すると、作用が強くなることが知られています。

### 【このワクチンの接種前に、注意することは？】

- ワクチン接種を受ける人または家族の方などは、このワクチンの効果や副反応などの注意すべき点について十分理解できるまで説明を受けてください。説明に同意した上で接種を受けてください。
- 医師が問診、検温および診察の結果から、接種できるかどうか判断します。
- 次の人は、このワクチンの接種を受けることはできません。
  - ・ 過去にこのワクチンに含まれている成分またはジフテリアトキソイドでアナフィラキシーをおこしたことがある人
  - ・ 明らかに発熱(通常37.5℃以上)している人
  - ・ 重篤な急性疾患にかかっている人
  - ・ 上記以外に医師が予防接種を行うことが不適当な状態にあると判断した人
- 疾患のある人は、医師が健康状態や体質に基づいて、接種の適否を判断します。

### 【このワクチンの接種スケジュールは？】

高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる人:肺炎球菌による感染症の予防

1回0.5mLを筋肉に注射します。

小児(2か月以上6歳未満):肺炎球菌による侵襲性感染症の予防

初回免疫 27日間以上の間隔で3回接種

追加免疫 初回免疫から60日間以上の間隔をおいて1回接種

1回量0.5mLを皮下に注射します。



#### 【定期接種 i】

初回免疫:3回目接種は1歳まで

追加免疫:初回免疫終了後60日間以上の間隔をおいて1回、1歳以降に接種する

#### 【任意接種 ii】

- ・ 希望される場合には医師に相談してください。

i 定期接種:予防接種法で定められた予防接種を、定められた年齢で受ける場合

ii 任意接種:予防接種法で定められていない予防接種や、定期接種で定められた年齢から外れて受ける場合